

第七回国際海藻学会議略報

廣 瀬 弘 幸*

昨年来本誌上其のほか機会ある毎に紹介予告して参りました第7回国際海藻学会議(委員長土屋靖彦)はいよいよ過ぐる8月8日に開会され同月17日朝無事に終了しましたことを深いよろこびとともにお知らせします。この会議は1952年英国エジンバラにおける第1回以来3~4年目ごとに開催され、ノルウェー、アイルランド、フランス、カナダ、スペインを経て本年日本において開催されることになりました。次に会期中の様子のあらましを略記します。

1. 参加国と参加者: 26カ国の外国から 157名のアクティブメンバーと39名の同伴者の来会があり、日本国からは 217名のアクティブメンバーと10名の同伴者が来会し、総計27カ国、423名の多きに達し、国際海藻学会議としては、未曾有の盛会になった次第であります。
2. 札幌大会の会場と日程: 札幌大会の会場は同市内のパークホテルにとった。8月8日の開会式に始まり、8月8, 10, 11, 12日の4日間はパークホテル内の3室を会場にあて4題の特別講演と126題の一般講演とが行なわれた。第1会場では藻類の分類・形態・生態、第2会場では藻類の生理・生化学・培養、第3会場では藻類の化学・応用に関する一般講演が行なわれた。本会議と平行して、同伴の方へは特別に配慮された婦人プログラムが組まれたことを附記します。また特にホテル内の1室を展示場にあて、日本産コンブ科植物の実物標本と美しいパネルを陳列して参加者をよろこばせた。

また8月9日には室蘭での海藻採集および有珠・洞爺湖の見学観光のバスツアーが行なわれた。

3. 関西部会大会のあらまし: 8月13日の夕方から17日の朝迄は会場を京都市内の京都ホテルと名古屋市市内の名鉄グランドホテルとに移し、関西地方での見学・観光・現地討議とに当てられた。参加者は国外116名、国内21名計137名の多きに達し、終日冷房バスを駆馳して、小倉屋昆布工場の見学に、離宮や御所の庭園の拝観、奈良見物、志摩半島観光に大いに旅費をふくらませながら、互の親睦の実を挙げ、極めて盛会裡に終了した。特に16日の和具大島での海藻採集は、参加者各位に感銘いや深きものが残ったようである。

4. 関連集會その他: 8月10日の夕刻パークホテル内で国際藻類学会(会長広瀬弘幸)の

*日本藻類学会会長兼国際藻類学会会長
神戸大学理学部生物学教室

総会が開かれ、懸案の沢山な議題が討議決定された。なお札幌大会終了後引続いて日米協力セミナーが行なわれたことを附記します。

紙面の制約もあり、取りあえず生々しいニュースとして概要のまたそのアウトラインを報告しました。講演の内容、会場内の模様、採集会の状況、レセプションでの豪華な楽しさ、等々は別の機会にゆずります。ただ一言最後に、このシンポジウムの盛会裡に終了し得たかげに、学会会議の事務当局の方々、組織委員会・実行委員会・募金委員会の方々、北海道地区委員会・関西地区委員会の方々その他大勢の方々の協調的な活動あってこそこの帰結であったことを想起しまして、深い敬意と感謝の念に満たされながら筆を擱きます。